

みんなの 声 ひろば

大山町に 嫁いで



岡田あゆみ
(中高西区)

この自然豊かな大山町に嫁ぎ、早いものでもう15年になります。結婚した当初は、主婦として家事と育児に専念していましたが、現在では町内の「大山やすらぎの里」で介護の仕事をしています。

5年になりますが、当時1才の次男のことを考えるとかん配でした。高校、中学となる長男、長女が保育園に通っていたころには考えられなかったことです。土曜午後保育や平日午後7時までの延

長保育が導入されたお陰で安心して働くことができ、大変助かっています。日々仕事を通じ、施設を利用されるお年寄りや関わり、色々なことを教わり体験させていただいています。辛いこともありますが、職場の皆さん

や利用者の皆さんに励まされ毎日楽しく過ごしています。今後ともお年寄りや子どもたち、皆が安心して過ごしていける大山町であってほしいと思います。

母子愛を 大切に



阪本 京子
(御来屋11区)

今年、私は大山町教育審議会委員の一人として幼児教育部で活動しています。乳児保育の現状を目の当たりにし、子どもにとって家庭育児に勝る環境はないと、確信しました。

母子愛、家族愛の心の基盤は3才までに、その子の「生きる力」の源として、脳に刻み込む必要があります。母乳育児は、子どもの心を、強くたくましく育てます。

間違った男女平等教育は、母親の本分である育児さえも奪ってしまいま

笑顔が うれしい



前田 真弓
(下田中2区)

介護老人福祉施設「ル・ソラリオン名和」で働いて、もう7年がたちました。月日のたつのは本当に早いものだと思えて感じています。施設での介護の仕事は、ご利用者の日常生活の援助です。食事・入浴・排泄のケアはもちろん、健康管理・精

神的ケアなど色々あり大変だと感じる時もあります。それでもご利用者に接した時の笑顔を見ると嬉しく思いますし、私自身も元気をもらっていると感じています。

この7年の間に介護保険が始まり、認知症ケア個別ケアが重要になって

あとがき

野山の木々が一齐に芽吹きはじめ、生命の躍動を感じるこの頃、議会報原稿づくりに追われています。

3月定例議会は、平成19年度予算審議が大きなウエイトを占めています。

国の三位一体改革による税源移譲が進められているものの、人口の少ない大山町にとっては、町民税増収よりも交付税減額の方が大きく、2億2千万円もの歳入の減少となっています。

その結果厳しい予算編成を強いられています。予算審議では、非常に活発な質疑・応答が繰り広げられました。

紙面の制約で割愛せざるを得なかったことお詫びいたします。

《広報委員会》

委員長 西山富三郎
副委員長 岡田 聡
委員 遠藤 幸子
委員 吉原美智恵
委員 西尾 寿博
委員 近藤 大介